

「芸術とは我々がわざわざしつらえたベッドに身を横たえにくるのではない；芸術はその名を口にただけで逃げ去るものだ：芸術が好むのはその名を知られないことである。その最良の瞬間とは芸術がその名を忘れた時なのだ。」

ジャン・デュビュツフェ

COLLECTION DE L'ART BRUT

1945年より

ジャン・デュビュッフェが文化的規範を超越した作品調査に着手する。とりわけアンドレ・ブルトンやジャン・ポーランらと発見を共にする。デュビュッフェは小説家、芸術家、精神科医らを通じて速やかにスイスと関係を結ぶ。

1947年

画商のルネ・ドルーアンがパリのヴァンドーム広場の画廊の地下を提供。やがてこの場所は「フォワイエ・ド・アール・ブリュット（アール・ブリュット館）」となり、バルビュ・ミュラーの作品がオープニングを飾る。

1948年

アール・ブリュット協会が10月に設立され、出版社経営のガストン・ガリマールが場所を提供する。スラヴォ・コパックが、コレクションの事務、学芸員業務、記録保管に携わる。ジャン・コクトー、トリスタン・ツァラ、ホアン・ミロ、アンリ・ミショーらがデュビュッフェの希望で秘密にされた場所でこれらの作品と出会う。

1949年

ギャラリー・ドルーアンでの展覧会、およびジャン・デュビュッフェがアール・ブリュット の概念を定義したテキスト「文化的芸術より生の芸術を好む」所収のカタログ出版。

1951年- 1962年

アール・ブリュット協会の解散。アルフォンソ・オッソーリオの申し出によりコレクションはアメリカへ向かい、ニューヨーク近郊の彼の邸宅に置かれる。

1962年

作品がフランスへ帰還。ジャン・デュビュッフェがパリ中心地にある邸宅を購入。アール・ブリュット協会が再建される。組織は研究所の体裁をとり、予約制で見学可となる。

1962年- 1970年

マジ・ギル、カルロ、ルサージュ、ガストン・デュフ、ポDESTAなどが、さまざまな調査や寄贈により非常に豊かになったコレクションから紹介される。1967年、5千点のコレクションのうち7百点がパリ装飾美術館で展示される。主要作家についての専門研究論集『アール・ブリュット』分冊第一号が1964年に発行される。

1971年

ジャン・デュビュッフェとローザンヌ市の間で、コレクションの寄贈についての交渉が持たれる。1972年に市議会で承認。

1976年

ローザンヌ、アール・ブリュット・コレクションの開館。ミシェル・テヴォーが学芸員に就任。

2001年

リュシエンヌ・ペリーが館長に任命され、2009年よりアート・ディレクターを務める。

アール・ブリュット・コレクションは、さまざまな理由から文化的操作や社会的順応主義から免れた独学の作家たちを紹介する。

アール・ブリュットの作家たちは、反逆精神を持ちつつ内に籠り、規範や集団的価値を知らぬアウトサイダーであり、囚人、精神病院の患者、変人、世捨て人、社会から見放された者たちである。彼らは孤独、秘密、沈黙の中、鑑賞者の批評や他者の視線に一切配慮することなく制作を行っている。彼らは芸術的伝統からの影響を免れて奇妙な具象化の方法を実践し、あらゆる過程を創造しつつ作品制作を行なう。作者らは自らの技法をしばしば前代未聞の方法あるいは材料で構想する。

アール・ブリュットの発見者であり理論家であるジャン・デュビュッフエは、1945年よりスイスで最初の作品調査を行った。このフランス人の画家は、アール・ブリュットを「まったく純粹で、生（ブリュット）で、制作段階の全体が作者によって発明が重ねられた芸術活動であり、それは作者自身の衝動のみに発する」ととらえ、たちまち夢中になった。またデュビュッフエは当美術館の生みの親である。彼がスイス、ローザンヌ市へ多数の作品を寄贈したことから、1976年にアール・ブリュット・コレクションが誕生した。

アール・ブリュット・コレクションは現在6万点の収蔵品を数え、ますます多くの鑑賞者を集めている。毎年ヨーロッパ、アメリカ、日本から約4万人もの人々が訪れ、非常に個性的で既存の価値を打ち壊すような作品と出会っている。常設展と平行して、当美術館ではテーマ別（群衆あるいはエクリチュール）、作家別（アロイーズ、ヴァッラ、ヴェルフリ）の特別展を企画している。またアール・ブリュット・コレクションではコンサート、演劇、ダンス、青少年を対象とした多くの催しを企画している。

COLLECTION DE L'ART BRUT

Avenue des Bergières 11
CH – 1004 Lausanne

Tel. +41 21 315 25 70
Fax +41 21 315 25 71

art.brut@lausanne.ch
www.artbrut.ch